



田川市長

ふたば きみと
二場公人市長

昭和32年1月19日生まれ。昭和50年、福岡県立田川高等学校卒業後、青山学院大学経済学部に進学。同大を昭和54年に卒業し、平成19年から平成27年まで田川市議会議員を2期務める。平成27年の田川市長選挙で初当選を果たし、現在1期目。



たくさんの方に
来て、泊まって、楽しんで
もらえるまち「たがわ」。
そんなまちを目指していきます。

二場市長 演劇やアニメの脚本から、映像、小説まで幅広く手掛けられ、今後ますますの活躍を期待しています。

遠きにおいて思いつくるさと
二場市長 ふるさと田川市を離れて約40年。東京から見ると

はいかがですか。
中島さん 今でも年に1回は田川に帰っているのですが、にぎわいがなくなると、寂しいなという思いがあります。山本作兵衛さんの炭坑記録画などが世界記憶遺産（世界の記憶）に登録されて、石炭・歴史博物館などには来てもらえたりするけれど、その後訪れたり泊まったりする施設がないから、結局ほかのまちに行ってしまうという話を聞いたことがあって、もった

いないなと思っていました。
二場市長 宿泊施設は大きな課題です。現在、その誘致を企業誘致の一環として始めているところですが、また、にぎわいをつくりだすため、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致にも取り組んでいます。そのためには宿泊施設は絶対に必要。建設されれば、例えば、キャンプ終了後にその施設を一般に開放したり、別の大きな大会の合宿を誘致したりと可能性は広がっていくと考えています。

中島さん それと、やはりどうしても怖いというイメージが付きまわってしまっているので、これをどうにかしないとイケないでしょうね。

二場市長 それは私も実感しています。しかし、実際にはそんなに怖いことはないと思います。イメージを払拭するためのPR不足は否めないところですが、
中島さん イメージアップを図らないといけませんね。

二場市長 そのためにも、まずはきれいなまちにしていこうと「美しいまちづくり」を田川再生の柱のひとつとして考えています。本年度から街路に花を植えたり、ボランティア活動を奨励したりと取り組みを少しずつですが進めています。また、田川伊田駅舎の改築を含めた駅前整備も含めて、とにかくイメージを明るくものに変わって、たくさんの方に泊まって楽しんで帰ってもらえるまちにしたいと思っています。



やっぱり田川がふるさと
二場市長 市では、旧猪位金小学校校舎などを活用した、音楽や映像産業の拠点施設づくりや、映画やドラマなどの撮影隊を誘致するためのフィルムコミッションの立ち上げなど、中島さんの守備範囲に近いところでのまちづくりも進めていくこととしています。また、旧田川東高校跡地に観光交流拠点施設を整備するという計画も進めています。そういった部分でも、今回の大使就任をきっかけに、さまざまな提案や意見をいただければ、とても助かります。

中島さん そんなにみなさんが思われているほど力はないのですが（笑）。18歳で上京してもう40年岡田川の間人だという強い思いがあります。にぎやかだったまちがさみしくなるのはやはり悲しいので、微力ではありますが私にできることでしたら協力していきたいと思えます。

二場市長 今回はお忙しいところありがとうございます。
中島さん こちらこそありがとうございました。



ふるさと田川の
魅力発信に
協力できたら

劇作家／脚本家

なかしま
中島かずきさん

昭和34年8月19日生まれ。昭和53年、福岡県立田川高等学校卒業後、立教大学文学部心理学科に進学。同大を昭和57年に卒業し、出版社に勤務しながら、脚本家、作家としても活躍。平成15年には「演劇界の芥川賞」といわれる「岸田國士戯曲賞」を舞台劇「アテルイ」で受賞し、翌平成16年には「髑髏城の七人」で小説家デビューを飾った。同作を脚本化した舞台劇が、平成29年3月、東京都江東区豊洲にオープンする「IH1 ステージアROUND東京」のこけら落とし公演として上演される。



中島かずきさん
新春
対談
二場公人市長

たがわの魅力を
全国に発信!!



11月1日、本市の魅力を国内外に広く発信し、知名度向上やイメージアップを図る「たがわ魅力向上大使（tanto大使）」に、本市出身で、現在、劇作家・脚本家として活躍する中島さんが就任しました。新たな年を迎えるにあたり、二場市長と中島さんの新春対談の様子を紹介します。

思う田の中のふるさと
二場市長 明けましておめでとうございます。また、たがわ魅力向上大使（tanto大使）に就任いただきありがとうございます。中島さん 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

二場市長 さて、中島さんは、田川市の出身ということですが、地区はどちらですか？
中島さん 糸飛です。後藤寺幼稚園から伊田小学校、伊田中学校、田川高校です。

二場市長 私も田川高校の卒業生で27期生です。
中島さん 私は30期生です。ちょうど市長が卒業した年に入学したことになりますね。高校時代には、演劇部に所属していました。

二場市長 大学でも演劇部だったのですか。
中島さん いいえ。大学では実は漫画研究会に所属していて、出版社に漫画原稿と履歴書を送ったら履歴書が採用され、卒業後は出版社で働いていました。そんな中、高校時代に福岡県の演劇大会で知り合った、いのうえくん（いのうえひでのりさん・劇団☆新感線主宰）が、劇団を立ち上げて、当初彼らは、つかさん（故つかこうへいさん・嘉穂郡嘉穂町（現嘉麻市）出身の劇作家・演出家）の作品を上演していたのですが、徐々にオリジナル路線に変更したことで、昭和60年頃に私も脚本で参加し

現在に至るという感じです。
二場市長 高校卒業までは田川市内で過ごしたということですが、ふるさとでの思い出を聞かせてください。

中島さん 実家が糸飛だったので、子どもの頃はボタ山が遊び場所。ボタ山と香春岳の景色がふるさとだといえます。私が書いた「山すべり」という小説は、この頃のボタ山の思い出をベースにしています。それから、中学生くらいまでは市立図書館にほぼ毎日のように通っていました。もちろん川渡り神幸祭、後藤寺パスターミナル、その上の映画館、商店街の夜市など、思い出は語りつくせません。

二場市長 なるほど。ところで、中島さんが脚本を手がけた「髑髏城の七人」が3月にオープンする「IH1 ステージアROUND東京」のこけら落とし公演として上演されると伺いましたが、
中島さん はい。360度回転する客席が設置された劇場で、1年3か月のロングランで上演します。成功を願っています。また、クレヨンしんちゃんなど漫画・アニメ作品にも関わりがあるそうですね。

中島さん 勤めていた出版社でクレヨンしんちゃん原作者の故臼井儀人さんを担当していたこともあり、また、社内で映像プロデューサーの仕事をしたこともあって関わりが深くなりました。その縁から、退社してからも脚本で参加していました。